

項目		金額	割合
財源	震災復興特別交付税(庁舎分)	6億7100万円	11.6%
	被災施設復旧関連事業債	18億3100万円	31.7%
	合併特例事業債	22億9900万円	39.7%
	一般会計・基金	9億8200万円	17.0%
合計		57億8300万円	100.0%

新庁舎の機能

総合窓口 ワンストップサービスの提供と、フロアマネージャーを置くことで、分かりやすく親しみやすい窓口を目指します。

法務局証明サービスセンター 不動産登記事項証明書や商業・法人登記事項証明書などを発行するサービスセンターを設けています。

災害対策 免震構造を取り入れ、揺れに強い庁舎となっています。非常電源により、停電の場合でも最長3週間の庁舎内電力をまかなうことができます。

ソーラーチムニー 外観で目を引く大きな塔はソーラーチムニーといい、上昇気流によって庁舎内の気温を調整するなど、自然エネルギーを積極的に有効活用しています。

新庁舎の建設事業費は約58億円で、合併や震災に対する国などの各種財源を活用し、市の一般財源は庁舎建設のために積み立ててきた基金などをあわせ約10億円に抑えることができました。観光交流センターなどの施設整備費は約7億円、うち一般財源は約4500万円、各種補助制度などを有効に活用してまいりました。また市内には、宿泊できる場所が少ないという声が多かったため宿泊施設の誘致を進め、昨年末にはビジネスホテルが開業となりました。誘致に際しては、当時の竹下内閣が各自治体に配分したふるさと創生基金1億円(旧岩井市分)とさらに国から追加資金があり、その総額2億9000万円がいまだ手付かずであったことから、このうち約9200万円を土地の取得などに抛出させていただきました。またプロオ101跡地についても、市民広場・まちなか駐車場としての整備活用に向けて、ふるさと創生基金から約7900万円を抛出させていただきますました。差し引いた約1億円については、今後のために基金として残してまいります。これらの整備においては、可能な限りの支援制度を活用して、後世に負担がかからないよう努めてきたところです。

いよいよ本年は、本市を通過する首都圏中央連絡自動車道が開通となり、人や物の流れが大きく変わっていくことが想定されます。今後、市内区間にパーキングエリアが設置されることから、この施設と一体化した「道の駅」の整備について検討を進めており、今年度は具体化した計画づくりに取り組んでいくところです。

これまで積み上げてきた各種事業については、整備効果と利便性を十分に発揮し、市のさらなる発展に繋げていきたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

そして、坂東市の次世代を担う子どもたちも元気に活躍しています。漢字・数学・英語検定取得率日本一への挑戦は6年目を迎えました。2月に実施される試験に向け、ひたむきに取り組んでいるとの話も届いています。子どもたちが成長していく姿は誰の目にもうれしいものです。昨年に引き続き日本一を達成できるよう、がんばれ坂東の宝物たち！

市民の皆様にとりまして、本年が実りある飛躍の年となりますよう心からご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。